

No. 13
31 Oct. 2006

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成18年10月31日

編集 NPO法人日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本社内) TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556

パプアニューギニア 独立記念お祝い会 パプアニューギニア大使館

2006年9月11日、「パプアニューギニア独立記念お祝い会」が日本・パプアニューギニア協会と私ども大使館の共催で、パレスホテル(東京都大手町)で執り行われました。

当日は、各国外交官、協会会員の方々をはじめ、政府および民間の多くの方々にご出席いただき、独立31周年をお祝いいただきました。式典では、PNGより来日されていたササ・ジベ農業大臣からお言葉をいただき、衆議院議員前国家公安委員長

村田吉隆先生に乾杯の音頭をおとりいただきました。

乾杯後のパーティーでは、三高物産株式会社様ご提供のPNG直輸入の生マグロが会場でさばかれ、お刺身やお寿司となってお客様の人気の的となりました。また、PNGの鱈皮製品、コーヒーなども紹介され、独立記念日に相応しいPNGを満喫するひと時となりました。



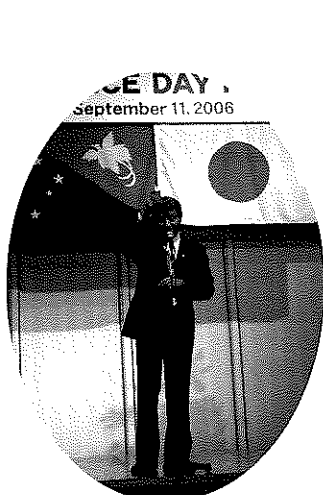
マウエ大使のご挨拶



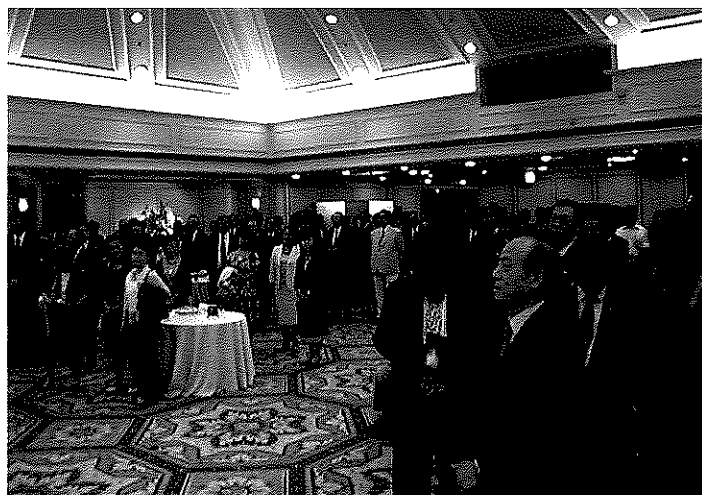
来賓をお迎えするマウエ大使ご夫妻



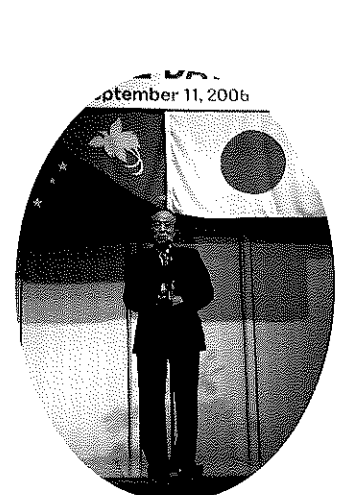
ササ・ジベ農業大臣のご挨拶



衆議院議員 村田先生の乾杯のご発声



終始なごやかだったパーティー会場



谷口会長のご挨拶

第3回 理事会、総会を開催しました。

2006年9月11日午前10時より、パレスビル(東京都大手町)にて第3回理事会が開催されました。

谷口誠会長をはじめ、多くの理事、顧問の方々にご出席をいただき、活発に意見交換がなされました。その結果、「分科会」を設置し、各分科会リーダーの元、多くの活動を行える体制作りをしていくこと

が決定されました。理事会終了後、直ちに総会に移り、理事会での決定事項、今年の「南太平洋盆踊り/大花火大会2005」などの報告がなされました。

最後に堀江正夫顧問より終わりのお言葉をいただき閉会となりました。

平成18年度 NPO法人日本・パプアニューギニア協会 役員一覧

- 名誉会長 山下 徳夫
(元運輸大臣、元衆議院議員、元日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)
- 名誉顧問 大河原 良雄(財団法人世界平和研究所理事長、元駐米大使)
- 名誉顧問 マイケル・マウエ 駐日パプアニューギニア特命全権大使
- 顧問 日本・パプアニューギニア友好議員連盟の諸先生
[代表 伊藤 公介(衆議院議員、日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)]
- 堀江 正夫
(東部ニューギニア戦友会会長、元参議院議員、元日本・パプアニューギニア友好協会会長)
- 菊本 享(全国ソロモン会事務局長)
- 会 長 谷口 誠(岩手県立大学学長、元パプアニューギニア日本大使、元日本国国連大使)
- 副会長(理事) 高松 裕満(協和海運株式会社 代表取締役社長)
- 副会長(理事) 鈴木 紀久代(新潟パプアニューギニア協会 事務局長)
- 理 事 長 宏行(オイスカインターナショナル 地域第3部 部長)
- 理 事 今井 雅啓(伊藤忠商事株式会社 機械カンパニー化学プラント部 部長)
- 理 事 畑中 幸子(中部大学名誉教授、文化人類学者)
- 理 事 原 晃(JICA国際協力総合研修所 国際協力専門員)
- 理 事 福島 正光(株式会社ビーエムコーポレーション 代表取締役)
- 理 事 石神 雅人(有限会社PNGコーヒージャパン 取締役営業部長)
- 理 事 山邊 登(日本・パプアニューギニア旅行業協会 会長)
- 理 事 賀集イレーネ(アルゼンチン共和国弁護士)
- 理 事 中村 弘(晃和木材株式会社 代表取締役社長)
- 理 事 馬詰 修(三高物産株式会社 代表取締役)
- 理 事 村越 裕之(コスモメディア株式会社 代表取締役)
- 理 事 武藤 優(株式会社パプアニューギニア海産 代表取締役)
- 理 事 唐沢 敬(立命館大学名誉教授、東京国際大学非常勤講師)
- 監 事 土屋耕太郎(土屋法律事務所 弁護士)
- 事務局長(理事) 島田 謙三(ニューギニア航空 日本支社長)

SERIES

パプアニューギニア 蘭紀行 ③

伊東 浩(当協会会員)



伊東 浩(いとう ひろし)
当協会会員。定年退職後、2000年からパプアニューギニアの各地に毎年蘭の散策をしながら生態調査を行う。
2005年、エンガ州クムル・ロッジにSky Orchid Gardenを完成。2002年、藤沢洋蘭愛好会会長に就任。2002年、世界らん展組織委員、個別審査部門クラークに就任。

PNGの中でもあまり知られていないし、ガイドブックでも紹介されていないが、今回は、オーエンスタンレー山脈の麓にあり、ポートモレスビーから北に150Km、ワイタペロッジ(Woitape Lodge)の近郊に咲く蘭達を紹介しよう。

2005年3月、ジャクソン国際空港のはずれにあるAirlines PNG小型飛行機(12人乗り)で、ワイタペロッジ(ローカル滑走路)に向け出発。約35分のフライトで到着。目の前がワイタペロッジ(標高1600m)である。

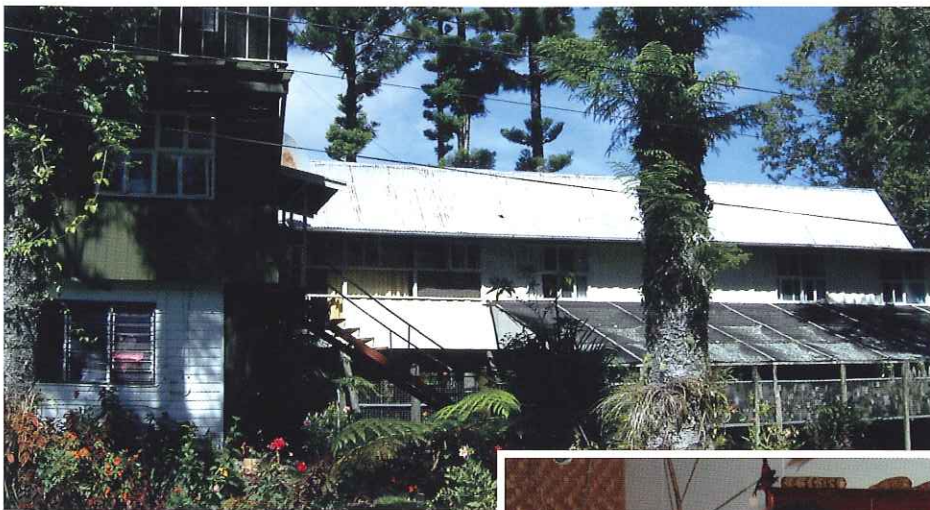


ワイタペ空港

日本人に余り馴染みがないのは、小型飛行機、週3便、観光資源が少ない、などのためであろうが、オーストラリア人、ヨーロッパ人には避暑を目的にのんびり過ごすのに人気がある。ロッジ周辺の山は、2000m級で日帰りハイクも可能であるが、必ずロッジの紹介でガイドを手配してもらう事をおすすめする。

ロッジのオーナー(Dobaim Kope)はマウントハーゲン出身で非常に気さくであり、妻のアイリーンが作る食事は、自家発電の冷蔵庫に新鮮なエビや肉、魚などがあるため超美味である。

ロッジの庭園では、Den.タピニエンセ、フォーベシー、ラウエシー、メジオカルカ



ワイタペロッジ

ーデコラタム、リパリスなど日本ではお目に掛かれない蘭達が出迎えてくれるでしょう。ロッジの内部は、スイスの山小屋風で天井には牛の皮が張ってあり、PNGではここだけでしか見ることが出来ない。



メジオカルカーデコラタム



ロッジのオーナー コベ夫妻



フォーベシー



リパリス・SP

早速、翌日ガイドを連れ雲霧林に入る。ひと山超えて谷川沿いに入ると、バルボ・SP、スパングロティス・SP、オベロニアなどここでしか見られない蘭達で一杯である。

しかし、ロッジの回りには見るものが余り無く、ブッシュウオーキングが可能な方にかざられるかも知れない。それから、Mt. Albert Edward (3999m)の登山基地でもあるが、登山には3泊4日は必要という。

今回、ワイタペロッジに行くことになったのは、元ポートモレスビーの国立植物園の園長ジャスティン・トカチェンコ氏が私物の蘭を栽培しているという情報を得たからである。結果は残念ながら、数百株のPNGで採取された蘭達は、メンテナンスが悪くすべて枯れてしまっていた。ドバイン氏に聞くと「管理費が掛かり彼が払ってくれないから」という悲しい結果であった。

命令無視を決断 ひそかに薬廃棄 岩田 亀作(当協会会員)

(「2005年10月16日付土毛新聞」に掲載された記事を転載)

「傷病兵200人を毒殺せよ」。1943年9月、戦況が厳しくなった太平洋戦争下のニューギニア。米国兵に追い詰められ、4000メートルを超える山越えを前に衛生兵だった岩田亀作さん(86)＝前橋市昭和町＝に上官から命令が下った。

「この薬知ってるな」と示されたのは500錠入りの消毒薬の入った瓶だった。通常は1錠を水で50倍程度に希釈して使う。それを「一人に2錠、マラリアの薬として飲ませろ」という指示だった。

「元気な時は兵隊として召集し、弱ったら「殺せ」。軍隊はこんなことをするのか。頭の中が真っ白になった」。ただ、命令を無視する決断は速かった。「誰にだって無事を信じて待っている家族がいるんだ」。瓶を土の中に埋めた。

傷病兵には「はってでも海岸に向かえ」と、上官に分らないよう、わずかなコメを渡しながら指示した。不確かながらも、日本の船が助けにくるという情報があったからだ。

岩田さんが命令を無視したことは誰にも知られなかった。その後岩田さんらの部隊は一月におよぶ山越えに突入。その間にも力尽きた戦友を、衛生兵としてなすすべもなく、ただ置いていくしかない毎日が続いたという。

自らも砲撃の破片で、手や足を負傷し、捕虜生活を経て、日本に戻ってきたのは終戦翌年の1946年。「前橋に帰ってきたら、焼け野原でぼう然とした」が、しばらくして、一人の戦友が訪ねてきた。毒殺命令の出た傷病兵の一人だった。捕虜にな

り、日本に帰ることができたという。「生きて帰ってきた仲間がいた。一人はいた。そのことがうれしかった」

ただ、毒殺命令のことは、この訪ねてくれた人をはじめ、家族にも誰一人として話さなかった。「戦地で亡くなった戦友の遺族の気持ちを考えると、口にできなかった」

初めて公表したのは1990年に自費出版した「地獄の戦場」でだった。戦争を繰り返さないためにと、書き残した。

岩田さんは、200人の傷病兵のうち、生き残ったのを確認できたのは一人だけだが、「ほかにも、捕虜になって日本に帰ってきた人がいる」と信じている。

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第6回

みなさん、こんにちは

「三高物産株式会社です。」

〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち
2-5-7-205
TEL098-861-0307
FAX098-861-4306

日本人は非常に多くマグロを食べます。私たち三高物産はそのマグロをいろいろな国から日本に向けて出荷する業務を行っています。

空輸マグロを扱う我々は、グアム、パラオ、フィジー、インドネシア、モルジブなどに漁業基地を持っていて、フレッシュマグロを日本向けに出荷して20年ほどになります。そして、ここパプアニューギニアでも5年ほど前から「空輸マグロ」をニューギニア航空と一緒にしています。

ポートモレスビー近海の珊瑚海が主なマグロ漁場です。1隻に10人ほどの船員さんが乗り込んだ小型マグロ漁船が2日程かかって漁場に着きます。マグロは延縄という漁法で釣ります。直径が3ミリくらいの細いロープを100kmほど延ばし、それに2000本から2500本の釣り針を垂らします。釣り針にアジやいわしの餌を付けます。この長い縄(ロングライン)を6時間くらいかけて海に投げ込みます。セッティングが終わったら船員は飯を食い、2時間くらい休憩したら、今度はその縄を10時間くらいかけて巻き上げます。マグロは2000本の釣り針で30本とか50本くらいしか掛からないので、効率率は余り良くないですね。

1日に16時間もの激しい労働作業を毎日繰り返し、20日ほど掛けてマグロを魚層一杯とり、大漁だと悠々胸を張って港に帰ってきます。

船が帰ってくると、陸上スタッフは大忙しです。マグロは港に横付けされた船からクレーンを使って陸揚げされ、処理工場に運ばれます。工場では品質をチェックされます。マグロによっては良い肉質もあれば、色が悪いものもあって、日本でのセリでは1kg2000円もあれば100円も出ますから、品質チェックは厳密に行われます。

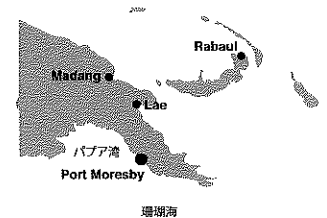
輸出品質と認められたマグロは100kgくらい単位の箱に氷詰、飛行機で成田まで飛んで行きます。

皆さんがパプアニューギニアから直行で東京に帰る際に乗るPX54便、この貨物室には毎回私たちのマグロが積み込まれています。多いときには20トンくらい一度に運びます。勿論、週1回の直行便のみ

では積みきれないので、シンガポール便とかプリズベン便にも分けて積んで行きます。成田からはトラックで北海道から四国まで配送されます。各地のセリ市場を通してパプアニューギニアマグロが食卓に届くのです。

珊瑚海にはマグロの一種の「ピン長マグロ」も非常に多くいます。刺身には適さないが「シーチキン」に使われます。多いときは1日に100本も漁獲することが出来ます。ピンチョウマグロは冷凍運搬船に積み込まれタイランドの缶詰会社に販売されます。輸出に適さない小さなマグロは市内の日本レストランなどにも販売されていますし、刺身に適さないマグロはステーキやロイン状に冷凍加工してアメリカやオーストラリア、カリブ海のフランス領などに冷凍コンテナで出荷されます。

現場スタッフや船員さんなど多くのローカルスタッフも含め、力をあわせてこれからも頑張っていきたいと思っています。



マグロの陸揚げ作業

第4回 パプアニューギニア独立記念 チャリティー・ゴルフ・トーナメント
パプアニューギニア大使館

2006年9月17日、21世紀初め富岡ゴルフコース(群馬県)にて恒例の「パプアニューギニア独立記念チャリティー・ゴルフ・トーナメント」が開催されました。悪天候にもかかわらず、69名の方々にご参加いただき、優勝杯をねらって盛り上がりました。本年度の優勝は染谷卓様に輝き、PNG独立記念杯と副賞のPNG金ナゲットを受賞されました。



なごやかに記念撮影

事務局からのお知らせ

事務局宛に以下のご著書を贈呈していただきました。

「太平洋戦跡紀行 ニューギニア」
(潮書房光人社)刊行

西村誠著、湯原浩司撮影。戦記を読むだけではわからない戦場の本当の姿を、現地踏査と多数の写真で再現したカラー版ビジュアルブックです。

「はじめてのビジン語」
～パプアニューギニアのことば～
(三修社)刊行

岡村徹著。堅苦しい語学本とは違い、PNGの人々の暮らしの様子などもまじえてビジン語を解説。読むだけでも楽しい一冊です。

賀部祥平様ありがとうございました!
「ごらくちょう12」に掲載されました「東京国際大学におけるマイケル・ツマレ首相名誉博士学位授与式、記念講演会および祝賀懇親会」の写真は、当協会会員でいらっしゃいます賀部祥平様ご提

供下さいました。ここに改めて御礼申し上げます。

編集後記

岩田亀作様の記事は、パソコンに打ち込む時、涙で字が読めなくなりました。内容が刺激的すぎるため、「ごらくちょう」に相応しいかどうか迷いました。しかし、反感を買うことを恐れるあまりこの事実をうやむやに葬るよりも、会員の皆様の懐の深さを信じて公表した方が「戦争を繰り返さないためにもいいのではないかと」考え、思い切って掲載しました。(佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数 2006年9月末 法人会員/15 個人会員/85

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

加入者名 / 番号 00140-2-277582
問合せ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp